第３８号

執筆者

@短信

高名祐美　新連載

はじめまして。私は急性期総合病院のMSW（医療ソーシャルワーカー）です。大学で社会福祉を学び、卒業して、希望したこの仕事に就きました。そして今日まで 35 年5か月、この MSW という仕事を続けてきました。来年3月には定年退職を迎えます。これを機に、この MSW の仕事を、自分の言葉で記しておきたいと、かねがね思っていました。

そんな折に、5月に自分の職場を会場にして「いしかわ家族面接を学ぶ会」のワークショップを開催する機会を得て、団士郎先生と出会いました。そこで知った「対人援助学マガジン」。自分も対人援助職として歩んできた日々を振り返り、記しておきたいと思い、お仲間にくわえていただきたいと存じます。

プライベートでは、二人の孫（2 歳と 5 か月）が可愛くてたまらない“ばば馬鹿”です。自宅は浄土真宗のお寺で、夫は住職。自坊では、認知症疾患医療センターや地域包括支援センターの協力を得て、月 1 回「認知症カフェ」を開いています。趣味は生け花、音楽（ピアノを少々弾きますが最近は全然・・・）。読書や映画鑑賞も好きですが、なかなか時間をとれない今日この頃。体力的な衰えや意欲低下を感じつつ、定年後の人生を、どう過ごしていくかを考える毎日です。

大石仁美

久しぶりにワンの話を。

*うちのワンは今年 4 歳になりました。人間で言え*ば28歳くらい。素直で陽気な性格のイケメン（イケワン）です。毎日の朝夕の散歩は、雨が降ろうと雪が降ろうと、どんなに疲れていても、自然に体が動く私がいます。「しんどい時はその辺で済ませといたら」とうちの爺はいいますが、そんなことできるわけがない。だれだってトイレも行きたいし、おなかもすく。自分と同じ。それが自然体だから行くのです。散歩は自転車で御所まで走り、御所に着いてから森の中を一緒に歩くのが日課です。自宅は相国寺東門から北へ200メートルほどのところなので、相国寺の塀に沿って南門まで走り、同社大学と女子大の間の広い道を真っ直ぐに、御所の今出川御門を目指して突っ走るのです。

そう、まさに突っ走るのです。

正面の信号が赤から青に変わったとたん、「あっ、いける」と私のつぶやきを聞き漏らすことなく、猛ダッシュ。ちょうど競馬場で、ラストスパートをかけたサラブレッドのように、飛ぶように走ります。人馬一体の騎手の快感とはきっとこういうものだろう。その間わずか20秒ほど。その間に道路を渡ってしまわないと東西南北すべての歩道が青信号に変わるので、人が多いと犬連れは走りにくくなるのです。

サーッと風のように通り過ぎるとそこは御所の中。自転車を止めて、声をかけるまで静かに待ち、「よし！」の声で直ぐに草むらに入って一回目の排尿です。男の子なので、他のワンの匂いがついていれば、必ず上かけをするのは止められません。その意味で御所はありがたい。

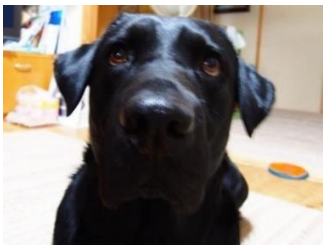
彼は私が次に何をしようとしているか見抜くので、リードで合図を送りながら、ゆっくり歩き、次に早歩き、たまに駆け足を交互にしながら林の中の散歩を楽しみます。

時々、「この子がおしゃべりできたら楽しいだろうなぁ～」などと空想するのですが、いやいや、悪ガキのように「くそばばあ」などと言われたらたまらない。しゃべれないからこそ可愛いのだと思います。たまに聞こえないふりをしたり、可愛い女の子を見つけたりしたら、自制心が効かないこともありますが、ワンだからこれも仕方がありません。すべて許します。何をやっても可愛いのですから。

「もう終わり！帰るよ。」

その声で彼はUターン。時々後ろを振り向きながら、誰かお友達に会えないかなぁ～と名残惜しそうに振り向きふりむき、帰途につくのです。

「可愛い～っ!!」いつも心の中で叫んでいる私です。



岡田隆介

長く生きていると、たくさんのことに遭遇する。その一部だけが記憶パケッジとなって棚に収まるが、自分で選ぶことはできない。時がやたらとゆっくり過ぎていた幼小児期の棚には、すっかり色褪せた白黒写真しかない。PTSD パケッジがない幸運に感謝だ。

その隣、思春期・青年期の棚にはあふれるほどの写真や動画がある。希望と死を身近に感じ、持て余すほどの怒りや驚喜があり、愛のすぐ隣には絶望があった時代、あんなに仲間がいたのに孤独だった日々、記憶はどれも総天然色だ。

大人になってからのぶんは未編集・未整理のまま無造作に積まれている。

いま70を少し超えてグライダーのように時間の風に身を任せられるのは、あの思春期から青年期にたっぷりため込んだエネルギーのおかげだ。この先どこまで飛べるのかはすべて風任せ。いい人生だったなどと嘯きながら、せっせと記憶パケッジを増やしている（着地前に失うことになるかもしれないが）。

エア絵本 -ビジュアル系子ども・家族の理解と支援 (5)P42～

一宮 茂子

Freddie Mercury's death【動画】

世界的に大ヒットした映画「ボヘミアン・ラプソディ」。その主人公である Queen band の Vocal の Freddie Mercury。彼は 1991 年 11 月 24 日に永眠。45 歳。その前日と当日の動画がアップされているのを観て驚愕した。コレって当事者や家族の同意を得ているの？ 常識的に考えてここまで公開する必要があるの？ 彼はこれまで AIDS ではないかと憶測されていたが、家族や仲間、医師やその関係者を守るために否定し続けてきた。そして彼は命が尽きる時を知っていたかのように自ら AIDS であることをメディアに公表し、その翌日に永眠。あまりにも突然すぎる。当時のメディア報道の内容が現在でも芋づる式に出てくる。Web 情報は便利な反面、長年にわたってプライバシーが丸裸にされることもあり非常に怖い。はたして彼はこのような現状を望んでいたのだろうか、と疑問に思う。

生体肝移植ドナーをめぐる物語(6) P251～

松岡 園子

代表を務めさせていただいている NPO 法人の活動として、7 月から塾をはじめました。母にも英語の先生として活躍してもらうことができています。おかげさまで地域の生徒さんも増えてきました。

母には 30 代から 60 代までの間に、病気のため 2 度にわたる長期の休養、休職期間がありましたが、70 代にしてまた好きな仕事をすることができているようです。

継続して働くということはできなくても、それまで休み休みでも、70 代になってから働くという生き方があっても良いんだなぁと母をみていて思います。

統合失調症を患う母とともに生きる子ども(5) P240～

中條 與子

酷暑のある日、トークイベントに参加した。インターネットのSNSで、20代から愛読している著者が上梓された本のトークイベントがあると知り、主催者である書店に申込みをした。私の障害を伝えて最前列にしていただきたい旨を相談すると、検討していただき、要望を聞き入れて下さった。イベント当日、書店の店長さんと著者との対談は、耳で聴き取ることができる言葉に限りはあったけれど、お二人の顔と口の動きが見えやすい席のお陰で、聴き取れなかった言葉を、視覚的な情報で補いながら会話を想像することができた。また、上梓された本は読了して臨んだので、更に話題が想像しやすく、楽しい時間を過ごすことができた。

トークが終わるとサイン会の時間が設けられた。会場には上梓された書籍に「ネコマンガ」つきサインをもらった。ご本人から、僕の名前とネコマンガを描くね、なんて説明を受けたわけではない。15年前くらいのブログで、たまに本や年賀状に「ネコマンガ」を描いたという日記があったのを思い出したので、勝手に推測しているだけだが、きっと間違いない。嬉しい。今回の上梓された書籍も良かったけれど、ネコマンガを描いてくれるなら、あの文庫本も持ってくればよかった。著者は私を知らないので錯覚でしかないのだが、私のために書いてくれたのではないかと思わず思って震えた、あの本を。

トークイベントが始まる前、本屋の店長さんの最初の説明も印象的だった。書店が街から消えている事、小さな書店としてできることとして、作家と読者をつなぐ機会をこのトークイベントを開催しているとのことだった。私はインターネット経由で本の購入や、電子本をスマートホンにダウンロードする事が多いので、考えさせられた。

上梓された本を書籍ではなく電子本だったら、ネコマンガのサインを直接描いてもらえなかった。色紙に書いてもらう手もあるが、著書があってこそ著者なのである。サインを描いてもらうなら書籍で、読むなら自由に行間や背景の色を読みやすく調節できる電子書籍と思う、書店の存続危機に触れても、読者目線から離れることができなくて悩ましい。

「盲ろう者」として自分らしく生きる (4)P268～

杉江 太朗

児童福祉現場で働いている杉江と申します。よろしくお願いします。私事ですが、先日、洗濯機が壊れました。日常生活にあるものがなくなると、その生活に大きな影響を与えます。修理を依頼するまでの間、家で洗濯機が使えないので、実家の洗濯機を借りに行ったり、コインランドリーに行ったりしながら、何とか対応をしました。修理を依頼し、点検をしてもらったところ、大きなパーツが割れていることが判明。修理に来た方いわく、通算で3200回ほど洗濯をしていたそうです。買って、4年程度なので、1日2回以上使用した計算になります。その場では修理が出来ず、後日修理になりましたが、なんと壊れたパーツだけの交換かと思っていたら、洗濯機のドラムや脳みそ部分まで交換となり、外身以外、ほとんどが交換されたような状況でした。修理の方の、洗濯機の故障個所の把握から、見積もり、修理に至るまでの対応、つまり、私たちで言うアセスメント、支援方法の検討、そしてその対応が素晴らしく、プロの仕事を見させられたと感じました。私たちの仕事は周囲にどのように映っているのでしょうか。そんなことを考えさせられました。

「余地」-相談業務を楽しむ方法- (7) P237～

迫 共

対人援助系の国家試験を受けるため、名古屋へ。前泊のために大須のホテルをとったところ、夏祭りでにぎわっていました。夕食をとるのに苦労していたところ「表現の不自由展・その後」の中止のニュースが。出店やバンド演奏、コスプレ（暑いのに…）を楽しむ人たちのにぎわいから、急に現実に引き戻された気がしました。

論議を呼んだ作品を展示するのだから、騒ぎが起こる事は予想できたことで、充分な準備がなされていなかったことに違和感を覚えました。しかし名古屋市長が公然と圧力をかけてイベントを妨害し、その後も「公金を使うのだから」という議論の呼び水になってしまったように思います。ジェンダー研究者の業績に対して、かの

国会議員が「捏造」と発言し、研究費支給を問題視した一件が思い起こされました。私たちの研究や発表に対しても、いつ、あらぬ中傷を受けるか分からない、そんな不安を感じさせられました。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ(7)
P234～

朴　希沙(Kisa　Paku)

この夏は、珍しく風邪を引きました。しかもお盆には台風が来て、旅行に行くこともままならず家で片付けなどをして過ごしていました。当たり前のことですが、生きていると自分の意志だけではどうにもならないことがあります。体調管理はさておいても、例えば天気がいい例です。今年は私は旅行の予定がそもそもありませんでしたが、多くの方がお盆旅行や帰省に台風が直撃し、足止めを食らったり残念な思いをしたりされたと思います。天気ならまだしも、思いもよらない事故や災害に合われる方もおられます。そんな時は「なぜこんな時に限って？」「どうして他の誰でもない私が？」という思いが、拭い去れないと思います。

私は基本的には、自分の力や頑張りで何かを乗り切ることには、不安はありつつもそれなりに自信を持っています。しかし時に、自分の頑張りとは関係のない、つまり人力ではどうにもならない出来事に大なり小なりぶつかることがあります。そういう時、はたと自分がなんの対応策も持っていないことに、気づかされます。自然環境に左右されづらく、時に季節の移り変わりにすら気がつきにくくなった現代を生きている私には、「自分や人の能力でなんとかすること」ではなく、「人の能力ではどうにもならないこと」、「人間の力では無力なこと」、に対して圧倒的になすすべを持っていない一それを受け止める姿勢や思想や態度を持っていないことに、気づくのです。以前は、そういうことにぶち当たると、ただただ行き場のない怒りを感じたり、悔しがったりしていました。今でもまあ半分はそうなのですが、最近はそれを自分のひとつのテーマにしようと思っています。自分の力でなんとかするだけでなく、自分の力ではどうにもならないことに対してどのように受け止め、それに対してどのような態度を取り生きていくかということを、折々に模索していきたいと思っている今日このごろです。

マイクロアグレッションと私たち(8)
P229～

浅田　英輔

８月末の土日は、東日本家族応援プロジェクト。援助者支援プログラム、お父さん応援プログラム、漫画トーク。特段変わったことをやるわけではない。「新しい知識を得る」ということもそんなになく、おなじみの感じ。いつものことをやっている感じはあるが、それでも、力を得る。日々の力を得るのは、大仰な目の覚める体験や知識もあってもいいが、それだけじゃなくて、小さなパワーの積み重ねなのだろうと実感する。「コツコツ」とか「努力して」とかではなく、日々の実感を積み重ねておくことが大事なのではないかなと感じた３日間。

臨床のきれはし(6)
P120～

三浦　恵子

私事ですが，私は社会人となって間がない時期に家族介護従事者となりました。10 年以上の単身での在宅介護，施設入所，療養型病床での看取りを行った実母の介護が一番長期間にわたりましたが，昨年末に配偶者の父を見送り，現在は配偶者の母の介護や疾病の在り方を関係者と詰めることが増えています。

ただ，介護保険の施策や介護の考え方も日々更新されていますし，介護に関する向き合い方には地域性があるので，単純に過去の経験に照らして対応できるものではないということを日々実感しています。介護を受ける立場の方のコンディションに細やかに目配りしつつ，私との関係性という観点も視野に入れていくとすると，対応の在り方というものは，マニュアルに頼ることや経験のみに依拠することで何とかなるというほど単純なものではないと考えます。学生時代から学んできた家族療法の視点も取り入れつつ，今起きている物事を俯瞰的に見ることの重要性を痛感することもしばしばです。

更生保護護官署職員
（認定社会福祉士・認定精神保健福祉士）

現代社会を『関係性』という観点から考える(9)
P219～

寺田　弘志

最近、興味を持ったのが、女子プロゴルフの渋野日向子選手。全英オープンを観ていて、はまってしまい、連日、夜中の3時過ぎまでテレビの前に釘付けになってしまいました。観ているこちらがハラハラドキドキさせられましたが、渋野選手は笑顔を絶やさず、リラックスしているようでした。いや、リラックスしている自分を演じていたのではないでしょうか。ギャラリーとタッチしたり、子どもたちとふざけたり、お菓子やおにぎりをもぐもぐしたり、コーチと冗談を言い合ったり。優勝インタビューでは、「吐きそうです」と言っていましたが、本当は緊張で消化器が動いてなかったのでしょう。ふりでもいいからリラックスすることが、勝負では大事だなと思いました。

凱旋してからは、渋野フィーバーが起きて取材が続き、自由にギャラリーとタッチもできず、コーチも一緒に回っていませんでした。十分にリラックスできず、副鼻腔炎もわずらって、優勝から遠ざかってしまいました。それでも28ラウンド連続オーバーパー無しという日本記録タイ。何かやってくれそうな気がする選手です。

スケートやテニス、ボクシング、バドミントン・・・自分が勝ったわけでもないのに、日本人選手が活躍するとワクワクしますよね。もうすぐラグビーワールドカップ。今度こそベスト8へ。

患者さんとも、そんな話題で盛り上がるのを楽しんでいます。

接骨院に心理学を入れてみた(9)

P215～

袴田　洋子

念のため申し上げておきますが、連載の内容は、事実の話をつなぎあわせたフ ィクションです。

看護学校で、社会福祉の講義を担当しています。今年度で3年目。ようやく、何を喋ればよいのか、ちょっと慣れて来た感じです。看護学校の2年生、19歳や20歳の子たちに教える「社会福祉」とは、人口動態から始まり、社会情勢、社会保障給付費、国民生活基礎調査、医療保障、介護保障、所得保障、年金制度、生活保護、高齢福祉、障害福祉、児童福祉などなど、制度のこと満載です。私は、介護保険のケアマネジャーなので、正直、他の制度は、細かく知らないのです。知らないのに、教えるって、地獄です。9 月 11 日が 15 コマ目の最後の講義。最後の講義は、テスト対策として、看護師国家試験の社会福祉の過去問 80 問をみんなで一緒に勉強。で、17 日が、テスト。作問も終わり、看護学校に送りました。19 歳や 20 歳の子たちに、制度を理解してもらうって、大変。リアクションペーパーで、一番、記述が多かったのは、学生も払わなきゃいけない「年金」と、デート DV も解説した「DV」でした。自分と関わりがあることは、誰でも興味持ちます。でも、「社会福祉」に関する内容って、明日は我が身、で、みんな、自分と関わりがあるコトなのです。

援助職のリカバリー

Ｐ１１２～

飯田奈美子

今年の夏も暑かったですね。我が家の5歳児娘は暑さに弱く、「しんどい、保育園お休みする」とだれ気味の日々を送っていました。こちらも仕事が山積みの中、保育園にいこうとしない娘にイライラ感が増してしまいましたが、イライラした気分では仕事に集中もできず、ここは夏の疲れをとるためにもリフレッシュしようと、お盆休みに私の実家に娘と二人で帰省して、めいいっぱい遊んできました。プール、川遊び、夏祭り、室内アスレチックなど。娘は1週間遊びを満喫できて満足したようです。私も日ごろしない遊びをして体力的にはしんどかったのですが、娘の喜ぶ姿がみれてとてもリフレッシュになりました。しかし、父親は仕事のため一緒に夏休みを過ごすことができずにいました。働き方改革とうたわれる様になりましたが、現実はそうではなく、夫が夏休みを取れるのも10月入ってからです。父親が子育てに参加したいけどできない日本の現状(長時間労働)が早く改善してほしいと願うばかりです。

対人援助通訳の実践から(9)

P225～

山口洋典

今号から3号にわたり、2019年7月に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催されたサービス・ラーニングの国際会議の様子をお伝えします。2015年にボストンでお目にかかって以来、常々感じてきた温和なお人柄と、ご見識にどっぷり浸った2日間を、どこまで文字で遺し、伝えていくことができるか、自分なりに挑戦しています。前日、26日には和食三昧に加え、金閣寺、龍安寺、法然院とお寺巡りをしたのですが、その前に立命館大学にも立ち寄 っていただき、ツーショット写真をいただきました。普段から写真は撮る方で、あまり撮られることに慣れていないものの「記念に撮りましょうか」と声掛けをいただき、進んでカメラを預けた次第です。

(写真、立命館大学の衣笠サービスラーニングセンターにて。撮影:東津真紀子・共通教育課長)

PBLの風と土(10)

P209～

関谷　啓子

向かいの家が取り壊されて更地になった。剥き出しの土が、今はまだ痛々しい皮膚のように見える。この家には大きな桐の木があった。私にとってはある意味で象徴的な桐の木だった。

今住んでいる家を見つけたのは犬の散歩の途中だ。まだ建築中だったが、大工さんに頼んで三階まで上げてもらった。窓からシャンデリアのように薄紫の花をつけた桐の木が見えた。五月だった。それでこの家を買うことを即決した。家の場所を「大きな桐の木の向かいです」と木の名前で伝えるのが、私の長い間の夢だったのだ。

あれから20数年、桐の木はいつも目の前にあった。夏には大きな木陰を作ってくれた。タクシーの運転手さんが車を停めてお昼を食べていた。手押し車のおばあさんは買い物帰りに一休みしていた。冬には裸木になって陽だまりができ、登校前の子供達の賑やかな声が聞こえた。

解体のお兄さんに「向かいにこの木があったから引っ越してきたのに・・・」と話すと呆れられた。伐られるまでの朝夕、太い幹に触れて話しかけ別れを告げた。ある日帰宅するとのっぺらぼうになっていた。

「解体する時、梁に昭和１１年と書いてありましたよ。新築の時に植えたんですかね。それからあの桐の木には鳥の巣も残っていました」と呆れていたお兄さんが話してくれた。そうか、私たちだけでなくたくさんの生き物を育んでいてくれたのか・・・。胸が詰まった。

桐の木が無くなってから、近所の人たちは出会うごとに「あの木、好きだったのに。淋しくなりましたね」と言い合っている。私たちは、気付かずにささやかな多くのものに支えられ、生きているのだと気づかせてくれた木であった。

今年の夏、一番心に残った出来事だ。

黒田　長宏

日本の主な検索エンジンから「婚難救助隊」で検索すると出てくるはずだが、全員が検索してくださるとは思わないので、サービス向上のためにサイトのリンクを張ろう。ここがネットマガジンの偉大なところである。クリックしても爆発はしません。(してもそれは別の原因からです。)

https://konnankyuujotai.jimdofree.com/

流行のキャッシュレスは、クレジットカードは使用していたが、ガソリンとドラッグス

トアでの買い物は同時支払いにしたほうが良いかなと思い、給与が振り込まれる銀行から直接スマホにチャージできるプリペイド式電子マネーにした。今流行りのなんとかペイは、個人商店などでも取り組みやすいというメリットがあるから有望だとの触れ込みだが、クレジット使用が多いらしく、それでは私とっては同じことになってしまう。だからプリペイド式を選択すべきだったのだ。本文に書けば良いものだが、なんとなく似た事柄なので、婚難救助隊のサイトに、同情するなら金をくれということで業務用銀行口座を記入したのだが、そちらも残金がインターネットで閲覧できるネットバンキングにしてみた。現在残高は100円である。どうだ。すごいだろう。明治時代だったら。とうとうここまで来たからには、自分自身が電子になって飛んでみたい。

あぁ結婚（11）
P207～

鵜野祐介

藤岡扶美さんの手話うたパフォーマンスコンサートに行ってきました。中島みゆきの「糸」を手話で＜歌う＞藤岡さんは圧巻でした。皆様もぜひ一度＜聴き＞に、また手話で一緒に＜歌い＞に行ってみてください。

うたとかたりの対人援助学（11）
P203～

山下桂永子

夏休みの宿題はギリギリにやっていたタイプです。毎年 8 月 31 日（前後）に湧き上がる謎の火事場のクソ力、いまだに信じています。最近は 8 月末には 2 学期が始まっている地域も多いらしく、同情を禁じえません。

さて、毎年 7 月下旬に行っていた町家合宿ですが、今年は中止になりまして、この 1 カ月ちょっとうじうじと反省していました。町家のあるじに宿泊のキャンセル料を持ってお詫びに行って話をしたところ、最近町家の宿泊者が減っているらしく、これまた申し訳ない気持ちになりました。ここ 3 年ほどで、日本の宿泊施設は 2700 件ほど乱立し、老舗の宿が年に 100 件ペースで廃業に追い込まれているとか。「うちも来年はわかりませんねー」と笑う町家のあるじの言葉に、驚愕しました。こんなに観光客増えてる感じなのに！？こんな素敵な宿なのに！？みんな泊まったらわかるのに！宿泊サイトに登録してないからって、面倒でも直接予約したらいいじゃない！ネット（胡乱座で検索したら一発ででる）で予約できるのよちなみに私はいまだに電話よ！

というわけで今回は素敵な町家の紹介と長い反省文みたいになりました。読んでいただければ幸いです。今ちょうど 8 月 31 日の 23 時半すぎです。

町家合宿 in 京都（12）
P185～

尾上明代

先日、東京・高尾にある老舗の料理屋さんに車で出かけた。夏休みだし、親孝行も兼ねて、気合を入れて懐石コースを予約してあった。随分前に行ったことはあったが、長年の間に道の状況が変わっているのではと思い、車のナビにお店の電話番号を入れて出発。車は私の予想とは違う方向に向かったが、途中ガソリンスタンドに寄ったり、また老親が一緒にいることで、他に気を遣うこともあり、初めは深く考えずにナビの指示通りに走らせていた。

以前、新潟の山中を運転したときナビに任せると、地元の人しか知らない抜け道のようなクネクネの山道をラリーのように走ったと思ったら目の前に目的のホテルが現れて、すごく楽しかった経験があったため、ナビはきっと賢く考えて導いてくれる、という気持ちもあった。しかし・・・いくら何でもおかしいと思うほどに、車はどんどん正反対の方に私たちを連れていき、ナビを信じるのが無理なところまで行ってしまった。

予約の時間も近づいてくるし、今さら後戻りもできず、永遠に到着しないかもと不安が襲ってきたとき、〇〇署という看板が目に入った。運よく警察があったと喜んで車を停め、建物に入ろうとしたら、そこは消防署だった。出てきて下さったのは、とても感じの良い、消防隊員と思しき男性 2 人。恐縮しながら事情を話すと、そのうちの 1 人がちょうどそのお店を知っていて、「まだまだずっと乗るけど、この先に圏央道の乗り口があるので、ナビはそこから高尾に連れて行こうとしている」ことを丁寧に教えて下さった。

本当にほっとしてお礼を言い再出発すると彼の言う通りだった。ただ、もし別ルートをとっていたら、とっくに目的地についていたのではないかと思うほど、乗り口は遠かった・・。

改めて考え直すと、私の出発地からならば中央道の国立インターからが正解だ。ずっと前、圏央道（首都圏から放射状に伸びる 5 つの高速道路をつなぐ高速道路）の建設が決まったころ、山をぶち抜く高尾山トンネルに対して「自然を壊し動物たちの住処を奪う。それに税金の無駄使いだ。」ということで激しい反対運動があった。高尾山が好きで子どもの頃から何度も行っていた私も、反対の署名をしていたことを思い出す。結局、裁判では行政側が勝訴した。

今回は、本当に必要でない道のりを走らされたような感覚だった。まるで、誰かの意志を忖度したナビが、圏央道を使わせたような・・・。

それはともかく、世界はどんどんナビや自動運転のような“AI”に支配される状況になっていることを痛感した。地図を頼りに、ワクワク知らないところへドライブしていた頃が懐かしい。私はもともと車の運転が大好き。早いスピードでの走りはもちろんのこと、昔は仕事仲間がもつラリー仕様の車を借りて、悪路を思いっきり走ったりしたものだ。（もちろん、そのように走っても良い場所を、です。）

あまりにも当たり前だが、文明の発達の裏では、別の大事なものが失われる。

結局、ナビと圏央道は、お店の予約時間ピッタリに連れて行ってくれ、お料理はとても美味しかった。ちょっと複雑な気分の休日だった。

高齢者とのドラマセラピー
P86～

小池英梨子

【ねこから目線。～保護猫専門のお手伝い屋さん～】が 2018 年の 8 月に開業からはや1年となった。仕事の内容としては、ノラ猫に不妊手術をする TNR のサポートや保護された猫の里親探しのサポートが多い。1年間で捕獲した猫の頭数は 427 匹。里親さんにつなぐことができた保護猫は 31 匹だった。猫の殺処分という社会問題に取り組むために、ボランティアや NPO としてではなく、社会的企業というアプローチで奔走した1年。今回はそれについて書きました。

そうだ、猫に聞いてみよう（15）
P190～

松村奈奈子

今年の夏は暑かったー。家から出るのも嫌になって、自宅で YouTube ざんまい。実は診察にくる若い世代との会話では、動画サイトの話は必須。自閉症の子どものお気に入り定番「妖怪ウオッチ」「電車動画」時には「エスカレーターがただ動いている動画」などなど。最近は「おしり探偵」なんてのも教えてもらいました。もう少し学年が上がると「ヒカキン」などまだまだ YouTuberの名前はよく聞きます。最近の大学生から聞いたのは「サブカル」の動画。ふむふむこんな世界もあるのだな。

個人的には旅が好きなので、旅の記録的な動画や街の風景などなど。あらゆる How to ものも充実しているので、料理から新しく買ったカーナビの使い方まで YouTube にはお世話になっています。ビッグマネーが動く世界でもあり、いいんだか悪いんだかわからないけど、つい見ちゃう魅力はあるなー

精神科医の思うこと（14）
P169～

柳　たかを

庭の草は、夏場は草刈り機で刈っても 10 日もすれば、そろそろまた刈りたくなるほど成長が早い。放っておくと大人の背丈よりも高く成長してしまう。以前 2～3 ヶ月放っておいたらジャングルのように繁茂して驚いたことがある。今は亡き義母が入院して誰も草引きをしなくなったためだ。本当は婿の僕が気を利かしてやらないといけなかったのだが、僕はマンガを描くことしか知らない都会育ちで、土いじり、庭木の剪定、草刈り、除草という田舎の暮らしについて知識不足なのと芸大教員の多忙を言い訳に、義母に任せきりにしていた。

物置の道具箱には、使い込まれた草刈り鎌も複数あった、義母が伸びた草を自分で刈っていたのだ。「庭の草刈りはいい運動になる」と、妻(娘)が言うのに甘えていた。

草の伸びる早さに驚いて、最初に電動の草刈り機を買い、いろいろ試してみたが、成長した太い茎の草にはパワーが足りないとわかり、エンジン式を手に入れ回転するノコ刃にビビりながらもだんだん操作になれていった。

ただ、勤務があった時は月に 1 回草刈りに帰れるかどうか、夏場をはさんだ繁茂期には帰ったら膝上まで草が生えていた。

「しかたない、除草剤を散布しょう」

除草剤には農薬に近い成分も配合されている。雨で流された薬剤成分の行方が心配だったが使うことにした。効果はてきめんで、希釈してまいた地面の草は翌週帰ってみると茶色く変色したまま死滅している。「ヤレヤレ」と安心したが、次に帰ると茶色い枯れ草の隙間から青々とした新芽が生えている。

義母が鎌で草引きをしていた時は、土は自然のきれいな黄土色だった。
僕が草を刈らずに同じ除草剤で除草を繰り返していた雨の日、なんだか草の間の濡れた地面が黒く変色しているのに気がついた。長靴で踏むと濡れたスポンジを踏んだような「グニュッ ズルッ」とした感覚。顔を近づけてよく見るとワカメのようなものがビッシリ繁茂しているではないか。

ネットで同じようなものはないかとググってみると、(イシクラゲ)という藻の仲間でアルカリ土を好むらしい。除草剤散布前には見たことがないので、おそらく原因は除草剤だと思う。

毒性はないが、乾いてもバラバラと乾燥ワカメを撒いたように地面に黒くへばりついており気持ちが悪いったらない。熊手でかき集めてゴミにして棄てるのだが、残っているやつの胞子でまたたくまに増殖する。

除草剤(化学薬品)を知識もないのに「便利だから」と安易に使った自分の責任だ。今回は「便利」なものにはリスクがついてくるということを勉強させてもらったという話。

東成区の昭和　思い出ほろほろメモ
P177～

齋藤　清二

明日から 9 月ということで、夏の終わりを感じさせられる今日この頃です。前回は休載してしまい、ご迷惑をおかけしました。時代はどんどん先に進んでいるようですが、幸い若い学生さんたちと交流する機会に恵まれているので、「推し」をキーワードにあらためてシリーズを立て直して行こうと思っています。

「あ！萌え」の構造
P163～

小林茂

大学の専任教員“も”始めて生活の何が変わったかというと、札幌にも住むところを借りたということがある。当初は、浦河から片道4時間かけて通うことも考えたが、前期の講義が毎日入っていて断念した。そのため急ぎ借りた。もともと仮住まいのつもりなので、寝るところ以外は何もない。洗濯機、冷蔵庫などもない。毎日が忙しかったので立ち合いの必要なガス会社とも未だに契約していない。ある程度、落ち着いたら費用のかからないところに引っ越すか、今の生活を見直すつもりで

いる。こんな事情もあって、大学とマンションの間の帰り道に温泉に入ってくる生活を続けている。しかし、温泉といっても銭湯に近い気軽さと料金でありがたい。今回は、日々助けられている、その温泉を紹介しておこうと思う。

＜温泉紹介＞

☆森林公園温泉　きよら

褐色の源泉掛け流しの天然モール温泉です！　内風呂は地下水を沸かしている主浴槽と露天風呂と同じ天然モール温泉です。

料金：大人440円

温泉質：ナトリウムー炭酸水素塩・塩化物泉（低張性アルカリ性温泉）　※旧泉質名：含食塩ー重曹泉

泉温　加温あり　加水なし

浴用適応症：神経痛　筋肉痛　関節痛　五十肩　運動麻痺　関節のこわばり　うちみ　くじき　慢性消化器病　痔病　冷え症　病後回復期　疲労回復　健康増進　きりきず　やけど　慢性皮膚病　虚弱児童

営業：公衆浴場　11：00～24：00　／　受付23：30 まで

休業：年中無休

対人支援　点描（19）

P160～

中島弘美

地域の方々を対象とする対人支援のボランティア養成講座にかかわらせていただいて、7 年になります。初心者さんからベテランボランティアさんまで、さまざまな年代の人がグループワークをまじえて学びます。連続の講座にもかかわらず、皆さん熱心に受講され、その後、施設や高齢者宅へ訪問する実践活動へとつながっています。

毎回感じるのは、女性が多いこと、そして、意欲的であること、無理せず長く続くことです。

今年度は、大阪の別の区でも新たに傾聴ボランティア養成講座を担当させていただくことになりました。講座が定着し、地域活動につながるよう願っています。

カウンセリングのお作法（20）

P34～

藤信子

長崎に帰って偶然読んだ本に、十字架山のことが書いてあった。十字架山は私が小さいころそのふもとに住んでいた小さな山というか丘である。カトリックの儀式の「十字架の道行き」を行う場所で、小さな山に順番に 14 本の十字架が立っていて、そこでお祈りしながら登るのである。

キリストがピラトから死刑を宣告されたところから受難を経て復活に至るまでの15の場面と出来事を心に留めて祈るのが「十字架の道行き」である。私は小さいころ、その山がキリストが十字架にかかったゴルゴタの山に似ているからだと聞いていた。

今度読んだ本によると、明治の初めの禁教令のために浦上を追われ、その後戻ってきた信徒たちが、絵踏みをしたことを罪として償い、そして信仰を表明できることを感謝して 1881 年にこの丘を購入して十字架を建てたのだということである。「十字架の道行き」の丘であることでも意味のあることだけれど、そういう由来だったことを知り、信仰について少し考えたいつもと少し違う小さな夏休みだった。

団遊

私が経営するアソブロック株式会社で15 年、経理や総務的なことを担当してくれている Y は、本業がイラストレーターであり、作家であり、お店のオーナーです。東京の武蔵小金井という JR 駅の高架下に、5 人の業態違いの店主たちと共同で、アトリエテンポというお店を構えています。今風に言うと、シェアショップでとでも呼ぶのでしょうか。

開店から 3 年以上が経過し、開店当初と違い、売上や知名度に差が出てきました。全国の百貨店・専門店から引き合いがくるお店もあれば、開店当初と変わらず、静かに経営しているお店もあります。個々の商売環境が変わる中で、当然それぞれのオーナーの目指す方向や、お店の理想の在り方も変化してきているでしょう。それなのに、ぼくの目にはずっと5 人が仲良く、安定的に運営できているように見えていました。そして、それはすごいことだなと思っていました。

そこで先日、面談の機会にそのことを Y に尋ねてみました。すると彼女は、安定運営の秘訣を「アトリエテンポは子育てステーションだから」だと答えました。5 人のオーナーには、いずれも近しい年齢の子どもがいます。お店はそれぞれの親の職場ですから、来訪機会も多く、子どもたち同士が自然と仲良くなり、今では兄弟姉妹のような関係だそうです。売り上げや知名度には差が出ます。一方で、子どもたちは等しく成長し、それなりの悩み抱えながら歩んでいきます。その中で生まれる子育て、家族支援という文脈の互助関係は崩れることがありません。それどころか、子どもたちが媒介となり、益々強固になっているようです。

預け合いや食事面での助け合いなどのメリットは親にとっても大きく、その強い互助的関係が、商業施設全体の安定運営につながっているということでした。お店というのは、営業活動を通じて利益を生むのが目的です。でも、そうであるがゆえに、一度歩調が崩れると、その維持が大変になったりします。方向性の違いで解散するバンドも、似たような構造であろうと思います。Y たちの仕組みが秀逸なのは、表面はお店なのだけれど、それが長くいい形で続くために、子育てステーションという仕組みを埋め込んだことです。その仕組みは、フラッとお店に立ち寄った一見客には、決して分かりません。

メインシステムを支えるサブシステムの存在。構想段階で、そこまで頭が回るかどうか。良い形で長く続くものには、こういった目には見えない一工夫があるのだろうなと、感心させられました。

人を育てる会社の社長が、

今考えていること

休載

村本邦子

この夏は、中国に 2 週間の出張、東北に 2 往復と、超ハードスケジュールだが、刺激に富む充実した旅ばかり。中国では VPN をつけていったので、SNS でニュース見ながら、香港の状況に胸を痛め（何しろ、つい最近、香港に行ったばかりだ）、中国の新聞報道とのギャップを確認する。街中には、あちらこちらに、自由、平等、文明、民主などのスローガンが掲示されていて、皮肉な気分になる。中国の人々は、香港の現実をどのくらい知っているのだろうか。南京や上海にある「慰安婦像」に触れながら、あらためてアートの力に驚嘆させられたが、日本の状況を見ると、あいちトリエンナーレで炎上だ。とても他国のことを言える立場ではない。私は、南京大虐殺の被害者にも、「慰安婦」にさせられた女性たちにも直接会って、お話を聞かせてもらっている。現地に行き、人々と直に出会い、自分の身体に歴史を刻むこと。ここにも証人としての責任がある。

周辺からの記憶 ―東日本大震災家族応援プロジェクト―（24）
P136～

國友万裕

8 月の下旬に学会のシンポジウムで青森に行くことになっています。これまでの 55 年間の人生で、一日でも滞在したことのある都道府県は、北海道、宮城、福島、東京、埼玉、神奈川、長野、愛知、石川、福井、京都、大阪、兵庫、奈良、滋賀、和歌山、広島、山口、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、26 都道府県です。したがって、青森で 27 になります。僕は 2 月 27 日生まれ。なんとなく数の不思議を感じます。

僕の教えている学生に青森の子がいるのですが、青森は寿命が最も短い都道府県とのことです。逆に寿命が最も長いのは長野とのこと。今回の学会でシンポジウムをするのは2度目で、1度目は長野でした。したがって、一番、寿命の長い県と短い県でシンポジウムをすることになるわけで、これも不思議な力を感じます。

僕が親しくしてもらっているカフェのお兄さんは7月 27 日生まれ。その人の奥さんは 5 月 27 日生まれ。僕は 2 月 27 日生まれ。これまた不思議。僕の行きつけの喫茶店のマダムは僕と同い年で、マダムのお母さんも僕の母と同い年、マダムのお母さんと僕は同じ誕生日です。これまた不思議な縁。

人間の世の中って不思議な巡り合わせで出来上がっているんですよねー。先日、ヨーロッパ企画の『ギョエー 旧校舎の 77 不思議』という演劇を観たのですが、これがまさにこの不思議な世界を描いたものでした。ちなみに演出の上田誠さんとは行きつけの喫茶店で一度お会いしました。そして、ヨーロッパ企画の人のなかには僕の昔の教え子もいるみたいです。What a small world!

世の中、理屈では説明できない不思議はたくさんあります。これからは科学では実証できない世界の研究が進んでいくことでしょう。古代エジプトの人たちは、星の流れを見ながら、運勢を占っていたわけで、むしろ実証できない世界の方が昔は大きかったはず。しかし、近代社会ではその部分がまともには取り合ってもらえなくなっている。これは嘆かわしい事態（笑）。

見えない力が存在しないんだったら、「人間はなぜ、創造されたの？」「誰が火水風地をつくったの？」 その疑問に答えられなくなります。

この頃、そういうことばかり考えています（笑）。歳をとるにつれて、神に近くなっているようです。

男は痛い！（30）
P104～

古川秀明

家族造形法の研修会を足かけ20年続けていますが、家族システムの見立てや、共感する力、自分の「絶対、～に違いない」という思い込みが見事にひっくり返されることに、毎回驚きを感じています。

講演会＆ライブな日々
P126～

西川友理

京都西山短期大学で、保育士・幼稚園教諭の養成をしています。それから、支援者に向けた当事者研究会や勉強会を定期的に開催しています。

本文で、敬語についてチラッと話を出しました。「なんだか敬語ってよそよそしくないですか？子どものお母さんともタメロで話す方が信頼関係が出来るんじゃないかなぁ」などと言う学生がいます。敬語で話すとよそよそしいから、信頼関係がつくれない、などということはありません。

そんな学生に私はよく言います。「さかなクンっていうタレントさんいるでしょ。あの人がタメロで喋ってるの見たことありますか？」「…そういえば、ない！」「そうでしょ！さかなクンはいつも敬語なの。あの人、よそよそしいですか？（まぁ多少キャラ立ちしすぎてるっていうところはありますが。）敬語かどうかと、よそよそしいコミュニケーションかどうかは、あまり関係ないんだよ。」「へー！ほんまや！」納得する学生達。

…というわけで、さかなクンさんには日々大変お世話になっておるのです。

福祉系対人援助職養成の現場から
P７３～

坂口伊都

今回、本文よりも近況が進まなくて苦しんでいます。里子との日々が目まぐるし過ぎて、近況どころでない程、余裕がない状態のようです。渦中にいると、わけがわからなくなる側面がありますね。本文の方も文章を過去形にしたり、やはり現在進行形だわと書き直したと思ったら、また過去形に戻してみたりと全く落ち着きませんでした。詳しくは、本文をご覧ください。
この状況の中で、周りの人にいろいろと心配をしてもらい、「その状況で対人援助をよくやれるね」と言われたこともありました。里子の行動にどのような意味合いがあるのかなと考えながら、そこから受ける親のダメージなども実感していくことで、今までよりも寛大な気持ちでいろいろな人と向け

合っているかも知れませんね。私自身も周りにいる方々に支えてもらっていると伝わってきて、ありがたいです。一定程度距離感を持って里子のことを考えようとすることができるのも、一緒に考えようとしてくれる人がいるからできるのだと思います。

養育里親～もうひとつの家族～

P131～

河岸由里子（臨床心理士）

北海道　かうんせりんぐるうむ　かかし　主宰

ここの所色々なことが重なって、休みも休みにならないことが多かった。働き過ぎなのは分かっているが、仕事がある限り仕方がない。年々年老いてきているのは事実なので、少しスピードを落とそうと思 っている。そんなある日、肺炎球菌ワクチン予防接種の案内が来た。65 歳になる者に、初めて送られてくる。それはそれでよい。自分もそうした年齢に達したとは思っている。しかし、その案内にいきなり「高齢者」とつけて送ってこなくても良いだろうに。急に「高齢者」と呼ばれることに戸惑う。

若いころは、60　と言えばもう老人という見方をしていた。しかし、自分がその年齢に達してみると、もっと年配の人たちを老人とみるようになった。60　はまだまだ若いと。従って「高齢者」と言うと、75　歳以上のことのように思っていた。自分はまだ高齢者ではない、年齢だけで判断しないで欲しいなどと思っていた。しかし改めて「高齢者」と呼ばれたことで、敢えて高齢者であることに向き合おうとしている自分にも気づいた。

「高齢者」になると、優先席に堂々と座っても良いのか？いや、まだそこまでの歳ではない？高齢者向け住宅、高齢者の運転事故等、「高齢者」とつく言葉を見聞きするたびに、色々考えてしまう。車の運転も程々にしないといけないだろう。一体いつまで仕事をし、いつ運転免許を返納し、老後の生活をどうするか。2,000　万円必要と言う話も出ていた。その真偽のほどはともかく、年金だけでは暮らせないのは自明の理。年老いて、様々な喪失を経験しつつ、更に老後の安心がないとは情けない。あ～あ。出るのはため息ばかり。「高齢者」としての自分と、「現役」の自分とのはざまで、なんだかモヤモヤしている。

境界あれこれ（13）

P79～

先人の知恵から（25）

P197～

岡崎正明

ニュースというのは世の中のいろんな課題・問題を指摘してくれる。日韓関係が最悪で旅行客が減っているとか、京都アニメーションへの誰も想像しなかったような犯罪だとか、首相が原爆犠牲者の式典で核兵器禁止条約に触れなかったとか。

我々が前に進むため、問題点を直視し、危機感を持ち、改善に向けて努力することは大事なんだろう。ただ、正直それだけだと世の中悪い話ばかりに思えたり、ちょっと不平等じゃないかと思ったり。

そこで私はいつ頃からか忘れたが、「報道されていない側面」にも想いを馳せ、対等に土俵に乗せてみるクセがついた。

例えば日韓関係最悪のニュースも、「とはいっても日本大使館の前での反日デモしてる人が韓国人の大多数って感じじゃないしな。こっちでは Ｊリーグの韓国人選手には声援が飛んでるし、アイドルやらチーズダッカルビは人気だし。そもそも世界中隣同士の国ってのは、仲良くなったり衝突したりの繰り返しだよね」とか、京アニの事件は「ホンマにがっくりな事件だけど、それでもこの国は容疑者をちゃんと治療して、きちんと司法の場で裁こうと理知的に動いて、その場で市民が犯人を血祭りに…とかせんなあ」とか、首相の式典での発言も「核兵器禁止や戦争反対をたくさんの市民が戦後の長きに渡って、まさしく不断の努力で口うるさいほど言ってきた成果が、今のこの国の揺れ動く安全保障環境の中でも、首相が非核三原則を堅持すると公言し、多くの国民が核武装について拒絶している世論を作っているのも事実やなあ」とか。時事問題のリフレイミング？といったところか。

だから何というわけでもないが、個人的には生きる上でとても役に立っていると思うし、最近ベストセラーとして話題になった「ファクトフルネス」にも通じるものがある気がしている。

役場の対人援助論（30）

P115～

（これが今、日本で売れる！そう思って並べているのが週刊誌、出版社？

おっさんはこういうのが好きなんだよ！ってポスト編集長はタイトル並べながら叫んでるんでしょうね。）

岡崎さん、余計な落書きゴメン、

本誌編集長、記す。

大谷多加志

先日、対人援助職の研修の企画・運営に関わる人たちで集まり、あれこれと話し合う機会があった。専門性の確保と言う御旗のもと行われる官製研修や各資格団体が実施する研修などが多い中、民間で、事業としての継続性を確保しつつ、どのように時代が求める内容を提供していくのか、という点について話をするのは、新鮮で面白かった。

既に持っている者が、持たざる者に知識や技術を伝えるという既存の研修の枠組みからの脱却や、援助職としての専門性についての見直しなど、改めて考えないといけないことが多くあるように感じた。「最近、官製研修ばかりで、受講者のモチベーション（やる気）が低い」とか「そもそも研修を受けようという人が減った」と言っている研修企画者側こそ、変わることを求められているのかもしれない。

新版K式発達検査をめぐって

P123～

馬渡徳子

私事ですが、六月末をもって、定年を一年半前に退職し、大学院での研究に専念致しました。

社会人として最大 4 年間の在学期間猶

予がありますが、偶然にも度重なった私事のアクシデントへの対応にて、
とうとう今年の二月の職員検診結果で、ドクターストップがかかるほど、心身共に追い込まれていることがわかりました。

利用者さん、職場の仲間、地域や仕事関係の皆さんには、多大な迷惑をかけてしまいましたが、この休職期間中に、率直に「公私の棚卸し」を行うことかでき、結果として、退職を選択致しました。

という訳で、「ケアプランの価値」を終了し、今回の寄稿より、テーマを変更させて頂きます。

今回は、自分を率直に振り返る機会を得た経験から学んだことをご紹介したいと思います。

棚卸しとシステム論

P173～

団士郎

印象に残る2019年8月の出来事といったら、中国/蘇州で食べたザリガニに尽きる。初めて食べたと思うが、饗され方が実質的で綺麗だ。やっぱり中国。

個人的な好みだが、少量のきれいな京懐石のような食い物に感動することはない。その全く逆に近い姿が運ばれてきた。

今がシーズンだそうで、地元のお客さんでいっぱい。ニュースで見ると、ザリガニが今、中国で大ブームだとか。

美しくておいしいなんてなかなかない気がした。店によってかなり味が違うのだとか。ここのが一番と薦める案内の言葉に間違いはなかった。

白煙の出ているのは冷製のザリガニ。紹興酒+なに酒？で味付けされている。もう一方は甘塩っぱい醤油味。どちらも捨てがたく、両方おかわりをした。いや～美味。

「続・家族理解入門」(8)

P52～

鶴谷　主一

対人援助的な反省。
若干自閉症的な園児がいました。家庭の生活リズムや幼稚園での対応、親の対応について来園してもらって、園長の私と担任、両親で話し合いました。一年前のことです。お父さんも熱心に聞いて頂き、家庭でのメディア接触時間を減らしたり、親子での関わりを改善していくことなどを確認しました。これで改善されると思っていました。
ところが話し合いのあと、数ヶ月は変化の兆しが見られたもののすぐに元に戻り、あれあれ？と思っている間に1年が経ってしまいました。入学も視野に入れて早急に改善しなければ、小学校で苦労することになる。いったい母親は何をしているんだと苛立ちも感じるほどでした。そこで「もう一度呼んで話をしようか」と提案したのですが、主任から「ちょっと待って下さい、なかなかお話に来て頂けないお母さんですが、まずは私たちがゆるやかに話をしてみます。」という提案を受け園長の出番はなくなりました。
主任と育児支援のベテラン保育者がお母さんと話を聞いたところ、先の話し合いでは聞けなかった本音がたくさん出てきました。その中で、前回の園長先生との話し合いは夫が主に話を進めたため自分は何も話せなくなってしまったこと、夫は夜中まで仕事していて結局自分任せなこと、その上で自分の育て方が悪いんだ･･･と悩みが深くなり、幼稚園は一緒に解決する同志ではなく対立する関係と意識してしまい足が遠のいてしまったという話でした。
主任たちの切り口は「こうしましょう」という要求ではなく「どんなことに困っていますか」というところから話に入りました。そして何も話してくれないと思っていたお母さんと2時間近くも話が弾み、お母さんももっと話したい！という雰囲気で明るい気持ちになって帰られたそうです。最後にちょこっと「こんど、これ試してみましょう」的なお話もできたということで、とても良い面談ができたということです。園長という立場によって壁ができてしまうこと、そしてなにより引き出すという作業ができていなかった自分の技術の未熟さに反省した一件でした。

原町幼稚園 http://www.haramachi-ki.jp
メール　office@haramachi-ki.jp
インスタ　haramachi.k
ツイッター　haramachikinder

幼稚園の現場から

P64～

水野スウ

去年にも増して、暑さが肌にへばりつくような厳しい夏でした。それでも 8 月半ばをすぎると、夕暮れには蜩がカナカナカナ、と涼しげな音色、庭草の茂みでスカシユリは次つぎ白い花を咲かせ、ほんの数日前からは鈴虫のリーンリーンリーン、、、。季節が、次の走者に日々、バトンを手渡していっています。

社会の様々なできごとについて、毎週 1 時間、自由に語りあう「草かふぇ」をスタートさせてから丸3年たちました。今回の原稿は、そのふりかえりです。

書いてみて、草かふぇを始めた時の私の少し気負った気持ちも、しっかり思い出せたし、やがてその気負いが、参加する人たちの表情や言葉、その時々のリクエストのおかげでゆるやかにほどけていった過程が、私自身よくわかりました。

近ごろの草かふぇでは、参加している人たちからお題をもらうこともしばしば。今さら聞けない、ってことも、草かふぇでなら聞けるんだよね、と仲間たちがよく言います。ちなみについ先日は、「教育勅語」について知りたいんだけど、という人がいて、じゃそれ話そう、と即、それをテーマに 1 時間の語りあい。それぞれが知っていることを持ち寄って、過去のはずの「教育勅語」を今につなげたい人たちがいることにみなで気づいていった、濃い時間になりました。

そんな草かふぇは、毎週毎週が、一期一会のワークショップのよう。それを誰より楽しんでいる私がいることも、今回のマガジン原稿で発見しました。草かふぇってなんだ？　と思う方は、どうぞ今回の「きもちは、言葉をさがしている～「紅茶の時間」とその周辺」をお読みになってくださいね。

きもちは言葉をさがしている（37）
P94～

荒木晃子

これがアップされる直前の9月14日（土）、立命館朱雀キャンパスで、フランスのモンペリエ大学法学部教授を筆頭に3名の法学研究者、7名の博士課程院生を迎え、所属する研究プログラム主催で日仏公開シンポジウムの開催を予定している。同性婚の立法化を成立したフランスに、日本が学ぶことは大きい。唯一、日仏双方の法学者に混じり、私も対論方式で報告することの不安（日本語だけれど）以外は楽しみである。まぁ、何事も初めての経験には常に不安がつきまとうと考えれば、これでよいのかもしれないが、やっぱり不安かな。

まさか、国際シンポジウムで報告する日がやってくるとは、夢にも思わなかった。が、一旦引き受けた責任は果たすしかない。きっとこの先も、ドキドキする体験が続くのだろう。ドキドキ・ワクワクはよいけれど、ドキドキしたあとに息苦しくないか気をつける年齢でもあることは、頭の隅に置いておかねば。

生殖医療と家族援助
P83～

中村　周平

先日、大学の後輩から「本を出します」という連絡がありました。博士論文に加筆・修正したものが出版されるとのこと。年齢に関係なく、ずっと尊敬している後輩からの吉報に本当に嬉しい気持ちになりました。また、そんな後輩に負けないようにと気持ちを新たに引き締めたいと思う、そんな機会ともなりました。

ノーサイド
P102～

見野　大介

最近、若い子から陶芸を仕事にすることについての相談を受ける機会が多い気がする。先輩方に比べたら、自分なんかまだまだそんな立場でもないように思うんですが。

そもそも自分の仕事のスタンスが、他の世間一般的な「陶芸家」とはちょっとズレている気がしますし。でも思うのは、相談に来る子たちは何かしらの「枠」にハマりたがってるような気がする。その方がより最短ルートで結果を出せるようになると考えてるんでしょうな。

技法1つとっても、人それぞれ身につけるための道のりは違うので、陶芸を仕事にする道のりも人それぞれ違うはず。人柄も人それぞれですしね。

失敗も成功への糧になるので、どんどん行動していくことが大事かと思う。そうすれば自分だけの正解が自ずと見えてくるはずなので。

そういうガツガツした若手がいてほしいなぁと思うところが、自分がオッサン化してることの証なんでしょうね（笑）

ハチドリの器
P4～

浦田　雅夫

2 年前に亡くなった母は生前、大学医学部への献体を願っていたので、その意思を尊重し、死後、簡単な葬儀を済ませ、大学へ遺体を引き渡した。

先日、解剖実習が終わり母の遺骨が帰ってきた。「ご苦労様でした。おかえり」

そう思い、小さな骨壺を抱きながら、ふと、戦後、何も入っていない骨壺をどれだけの家族が手にしたことだろう。やはり戦争だけは絶対にしてはいけないと強く思った。

社会的養護の新展開
P59～

千葉晃央

★主催する『家族をテーマにした事例検討会』が 200 回を迎えました。2001 年 12 月から始まり、節目 200 回目もいつも通りジェノグラムを使った事例検討をしておしまい！

★この夏は、東京　新木場　夢の島公園にある東京都立第五福竜丸展示館、東京両国にある東京都復興記念館、長野県上田市にある戦没画学生慰霊美術館　無言館を巡った。

そこで私が出会ったのは、夢の島のごみ捨て場に捨てられた第五福竜丸を保存しようと立ち上がった方々、のちに敵国となるアメリカから一番の桁外れな量の支援を得た関東大震災後の日本、そして若い画学生が夢も作品も残したまま終えることになった人生の記録を伝えていくと決めた無言館の歩みだった。

ここには書ききれない、名もない人々の思いが 2019 年に繋がっている。現地に行くと知らないことがたくさんあること、あること…。

原発被害からの風評被害が云々の姿、周辺国からたくさんの支援を差し伸べられた阪神淡路大震災・東日本大震災の姿とその国々を敵国のように貶める姿、そして震災、原発被害の思いを残す震災遺構などの活動をする人々の姿…。

私は、1954 年も、1923 年も、1945 年も経験していない。それでも、私の人生で同じような景色をみてきたように思えてならない。残念なことに「歴史は繰り返す」としても、それを少なくする努力。それがこうした直接的で根気のいる活動だろう。と同時に、どんな社会状況にそれが残るかも問われていることが明確になったのが 2019 年のようにならない。

人は成果が好きで、それを認められたい。承認欲求の生き物ともいわれる。なかなか下り坂を降りることも、下り坂を認めることすらもできないのは、日本の歴史が再三繰り返してきた経過の一つだ。

次は、私がある意味で降りる番が来ている40 代後半。こうして社会に問えば、自分に跳ね返る。多数に対して、そうでない方の要素として、社会にしかと存在する。その姿勢と根気に最大限の敬意とともに、その思いを胸に刻みたい。

知的障害者の労働現場
P17～

中村正

7月下旬の一週間、ローマに出かけた。「法と精神衛生国際学会」で報告するため

である。この学会は二年に一度。ウィーン、プラハと参加してきたので今回もいくことにした。次回は 2021 年にフランスのリヨンで開催予定とのこと。日本では研究仲間や実践者たちと「治療的司法あるいは治療法学」として概念を構築中で、英語では Therapeutic Justice（TJ）という。

なじみのある言葉としてはそれを支える Therapeutic Community（TC）がある。治療共同体と訳されることが多い。薬物依存からの回復をめざす「ダルク」が該当するだろう。他にもたくさんのコミュニティがある。共同体というよりも「サークル」と呼ぶ方がいいと私は思っている。

しかしそのローマ、とにかく暑かった。「欧州熱波でおおわれている」と報道されたように、確かに大変だった。しかも市街地全体が古代の街なみなので冷房施設がないところもある。学会会場の大学も扇風機が活躍していた。

とはいえ街は印象深いものだった。ホテルではなくAirB&B で予約したアパートメントで庶民生活風を楽しむことが出来た。なかでも印象的なのはたくさんの路地である。そこには思いがけなくおしゃれなカフェあり、お店があり、本屋がある。これが無数に張り巡らされている街自体が楽しかった。いたるところにある教会も立派で、広々してひんやりする空間に癒やされた。少し歩いては教会で休むという具合に街歩きを楽しんだ。

5月はブリスベンに、6月はソウルに、7月はローマと出張が続いた。秋は日本財団の支援で「社会的養育プロジェクト」が半年の研修として始動する。学びの秋なのでどこにもいかずにこのプロジェクトに専心することになる。

臨床社会学の方法（26）
P22～

脇野　千恵

忙しかった学校現場から退き２年。色々な事に手を広げてしまったからか、やることが一杯で、以前より忙しくなっています。毎日スケジュール帳を確認しないと、うっかり大切な約束が抜けてしまわないか、はらはらです。

にもかかわらず、今を生きることを大切にしたいので、楽しいこと、好きなことへのチャレンジ精神は衰えません。だから、また忙しくなるのですね。

そんな中、実は悲しいことがありました。教え子が自ら命を絶ってしまいました。1歳にも満たない子を残しての自死でした。何があったのか、想像もつきません。命を大切にと教えたはずですが、そんな教師のメッセージは、何の役にも立たないなぁと。何としてでも生きてくれたら、何か良いこともあったはずです。今は何も答えてくれませんが、「ほんま、あかんなぁ」と言ってやりたいです。

こころ日記「ぼちぼち」partⅡ
P271～

竹中　尚文

原稿を書けなかったので執筆者ではなく、今回は短信のみの参加である。『盆踊り漫遊』を読んでくれている人がいたら、ゴメンなさい。

前回の『盆踊り漫遊』で、映画『市民ケーン』のモデルといわれるウイリアム･ハーストによる日系人排斥運動のことに触れた。米西戦争は、ウイリアム･ハーストらが新聞発行部数を伸ばすために戦争に向けて国民を扇動したことが一因といわれる。こうした行為がなければ、米西戦争は起きなかったかもしれない。こうした行為がなければ、広島と長崎への原爆投下はなかったかもしれない。こうした卑劣な扇動的行為に対して、それを喜んで受け入れた読者の責任も忘れてはならない。

今回の嫌韓報道に対してその報道そのものへの批判も大切だが、そうしたものを喜んで受け入れた人たちの行為も恥ずべきものである。繰り返される言葉であるが、私たちは歴史から学ばなければならない。

今回の料理は、湯葉の炊き合わせ

かつて、京都の東寺の近所に住んでいた。「弘法さん」といって毎月 21 日にお寺の境内で市がたつ。歴史的フリーマーケットである。そこで「湯葉の炊き合わせ」を買った。美味しかった。その味を忘れられず、自己流で作るようになった。

【材料】ちりめん山椒(適量、好みの量であるが乾燥湯葉 100g に対して大さじ 1～2杯)、乾燥湯葉 100g、鰹だし、昆布だし、みりん、醤油

【作り方】まず、「ちりめん山椒」を市販のものを購入すると楽ちん。自分で作る場合は山椒の実の掃除が大変である。私は田舎暮らしのため、山椒は周囲に自生しているものと思っている。とにかく山椒の実を日本酒で煮る。ちりめんじゃことみりんと醤油を加えて、ほぼ水分がなくなるまで煮る。

とにかく「ちりめん山椒」が準備できたら、いったん置いておく。

① 鍋に水 200ml を入れて、鰹だしと昆布だしとみりんを加えて煮る。沸騰したら、味見をする。しっかり出汁を効かせるのがコツ。

② 出汁に乾燥湯葉 100g を入れる。私は乾燥湯葉を購入するとき、湯葉を作るときにでる切れっ端を購入するので大小不揃いである。湯葉の一片の大きさをある程度そろえてから、鍋に投入する。

③ 乾燥湯葉なので一気に水分を吸う。お箸で素早く混ぜる。そこにちりめん山椒を加えて、さらに混ぜる。醤油を加えて味見をする。全体がなじんだら、火を止める。火を入れすぎないように注意。

④ できあがり

今回のバックミュージックは“ネーネーズ”の「IKAU イカウー」

30 年ほど前にテレビの深夜番組で知名定男氏がこれからデビューする“ネーネーズ”を紹介した。その時、流れた曲が「IKAU」だった。流れた曲は、とても切ない曲だった。これから南米に移住しようとする人たちの旅立ちを歌う曲だった。CD 屋さんに行って注文したら、沖縄の地方レーベルだったので手に入れるまでにずいぶんと待った。届いたのはそれだけの価値のある曲で、今は私の携帯電話にも入っている。

『盆踊り漫遊』
休載